

多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発（収益力向上のための研究開発）

背景

*大豆、麦類の生産性向上のためには、各圃場条件に合致した合理的な栽培管理の実施が必要。
 *薬用作物では、機械化の遅れや適用可能な農薬が不足しており、雑草対策が課題。

目標

*大豆、麦類：多収阻害要因の診断法を開発、対策技術を体系化して農業者向けの生産支援マニュアル作成。
 *薬用作物：機械除草機のプロトタイプの開発+総合的雑草防除技術開発により利用マニュアルを作成。

1. 大豆250kg/10a以上、小麦500kg/10a以上の収量を達成し自給率向上への貢献
2. 国内薬用作物栽培の生産拡大への貢献

大豆・麦の減収要因を診断し、対策技術の導入を支援するマニュアルを開発

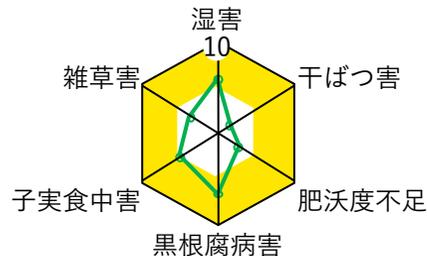
麦類



大豆

診断に基づく大豆栽培改善 技術導入支援マニュアル

簡易診断の結果



スマホで診断
Webマニュアル

湿害対策、雑草対策、病虫害
対策等、診断に基づく対策技
術情報を提示！！



薬用作物

機械除草マニュアルの刊行

農研機構
薬用作物栽培の省力化に向けた研究
（多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発）

薬用作物の機械除草マニュアル

～カンゾウ、トウキ、センキュウ～



代表機関：国立研究開発法人 農研機構 中央農業研究センター

研究開発責任者：吉永 悟志

問い合わせ先：TEL 029-838-8481

E-mail koho-carc@ml.affrc.go.jp